

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成18年7月6日(2006.7.6)

【公表番号】特表2002-517536(P2002-517536A)

【公表日】平成14年6月18日(2002.6.18)

【出願番号】特願2000-552198(P2000-552198)

【国際特許分類】

C 0 8 L 67/02 (2006.01)

C 0 8 K 5/13 (2006.01)

C 0 8 K 5/18 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 67/02

C 0 8 K 5/13

C 0 8 K 5/18

【手続補正書】

【提出日】平成18年5月16日(2006.5.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項5】芳香族アミンが4,4'-ジクミルジフェニルアミンであることを特徴とする請求項4に従う組成物。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】請求項9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項9】(2)の含有量が0.5~1.5重量%であることを特徴とする請求項8に従う組成物

。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

実施例II

第2の実験において、幾つかの安定剤が、それらの濃度の破断伸びに対する効果を測定するために2つのコポリエーテルエステルについて135 における老化においてテストされた。結果は時間(各々時間及び日)の関数として破断点伸び(%)を与える。

試料1-2: Arnitel(商標)EM400+ Irganox(商標)1330(各々0.5及び1.0重量%)

試料3-5: Arnitel(商標)EM400+ Irganox(商標)1098(0.25、0.5及び1.0重量%)

試料6-7: Arnitel(商標)PL580+ Irganox(商標)1330(0.5及び1.0重量%)

試料8-10: Arnitel(商標)PL580+Irganox(商標)1098(0.25、0.5及び1.0重量%)

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

上記のように時間の関数として破断点伸びを比較すると、Arnitel(商標)E中のフェノール系安定剤の働きが安定剤濃度とともに増加しないことを明らかにする。このような効果と濃度の関係はポリプロピレンオキサイドを基礎としたArnitel(商標)PとIrganox(商標)1330においても存在することが明らかであるが、十分に長い時間十分に高い破断点伸びを実現することができるためには非常に高濃度の使用がされることが予想されるだろう。しかし、高濃度のフェノール系安定剤は色に大きな悪影響を及ぼし、ブリードを生じさせ、従って避けられるだろう。Irganox(商標)1098ははるかに効果的であり組成物中の約1%のそれはほとんどの場合に十分に高い安定性を示す。しかしいわゆるブリード効果の理由でIrganox(商標)1098は一般的に約0.25%より高い濃度で使用されることができない。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

実施例III

0.5重量%のIrganox(商標)1098及び0.5重量%の下記の第2安定剤がArnitel(商標)E40Dに加えられ、続いて120 にさらされた試験片の破断点伸びの変化として120 における熱酸化安定性が測定された。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

第2の安定剤

Sumilizer(商標)TDP チオ相乗剤、ペンタエリスリトール-テトラキス-(3-ラウリル-チオ-ジプロピオネート)

PEP36(商標) 有機ホスファイト、ADEKA Argusからのビス-(2,6-ジ-t-ブチル-4-メチルフェニル)-ペンタエリスリトールジホスファイト

Naugard(商標)445

補助安定剤の添加は寿命を長くするが、使用された補助安定剤でIrganox(商標)1098と同等かそれ以上に効果的なものはない。有機アミンNaugard(商標)445は最も小さい効果を示す。